



共主体の実現を目指して

ミニ滑り台の前でカメラを構えていると、様々なことが起こります。順番を抜かしてしまう子、それが嫌で怒る子、一人で滑りたい子や、逆から上りたい子もいます。滑り台という保育環境をきっかけに、子どもたちが主体的な行動をとります。主体性には2種類あります。一つ目は、自分の主張の主体性。～がしたい、～がいい（～したくない、いやだ）といった感情です。二つ目は周囲への配慮の主体性。困る人がいる？誰かが怪我をする？といった感情です。「早く滑りたいけど、順番を守らないと友達が嫌な気持ちになるかも」、「順番を破られて嫌だけど、叩いたら怪我をしちゃうかも」。そして、配慮の主体性はゆっくり育つので、園で自己主張同士がぶつかる事が多くなります。ですが、そのぶつかりこそが、心の成長を促します。両方の主体性をバランスよく身につけることができるよう、サポートするのが保育者の役割です。お互いを尊重しあえる共主体実現を目指し、子どもたちと学び合いながら生活しています。山田 裕宇記